海外研修７日目

3 月 15 日　曇りのち晴れのち雨

本日は朝から晴天となり、日中は 28℃予想。予定通り Cleveland でも無事にレクチャーと見学を終えることができました。帰り道のフェリー桟橋では突然の風雨に遭遇も、見学には全く影響が出ませんでした。

6:40 の早朝の集合にもかかわらず、全員が元気な顔を見せてくれました。引率の先生方は本日も健康観察と食事状況の確認をされ、生徒達の回答は問題ありません。Yah～という生徒様もいらっしゃいます。皆さんがとても元気で何よりです。

6:50 に St.John's Anglican College を出発。Murray's 社運転手 Maurice さんの運転で快適に Cleveland に無事到着しました。7:50 Redlands 地区に早めに到着したため、近くの歴史ある灯台（Old Cleveland Lighthouse)に 15 分間、立ち寄り、各々写真を撮りました。1864 年から 1 年かけて作られた木造の六角形の灯台は高さ 12m で、クリーブランドポイントの北東端にあります。ここからはモートン湾とラビー湾が見渡せ、市民の憩の場となっている場所です。生徒の皆さんは、海の潮の香りや、マングローブの茂み、穏やかな海上や灯台を見渡し、しばらくたたずんでいました。

8:10Sea link フェリーターミナル（Cleveland 桟橋）到着。到着後、ターミナル内にあるカフェなどで乗船するオーストラリア人乗客らとも会話し交流していました。特に犬を連れた老夫婦との交流では誰とでも交流することのできる砺波高生のバイタリティーを感じました。

8:25 AJWCEF（オーストラリア日本野生動物保護教育財団）の矢島さんと過日お話しを聞いた水野さんの息子の Kai さんが合流しました。矢島さんは 2004 年からオーストラリアに在住され、現在の活動に邁進されている方でした。また Kai さんは片言の日本語を話す方でしたが、合わせて動物保護にも力を注がれている方でお二人とも生徒と親しく楽しくお話し頂けました。

8:50 バスに乗ったまま、乗船。生徒の皆さんに一日のスケジュールを案内。クイーンズランド大学の本校は別にあり、海洋学の研究所（Lab)にて講義を受けることもご案内しました。また、思ったよりも暑く乾燥しているため、熱中症対策の水分補給や紫外線対策の日焼け止めを利用することなども案内しました。乗船時間は約 50 分（目的地までは 13 ㎞の距離)。ゆったり流れていく景色は富山にはない景色です。空は晴れ渡り、生徒は写真撮影にも夢中になったひとときでした。
また、フェリーに乗船している一般のオーストラリア人と会話交流をしている生徒もおり、非常にゆったりとした空気の中でフェリーは進んでいきました。

9:51 North Stradbroke Island 桟橋（Dunwich）に到着。到着前に車に戻るよう船内放送が入り、皆さん甲板は移動。下船もバスにて。

9:55 クイーンズランド大学モートンベイ海洋研究センター到着。

10:05 SDGs セミナー（海洋汚染=海洋ゴミなどが及ぼす海洋生物への影響について）

海洋学者のレオニーさんより講義頂く。海洋ゴミに注視して、大きく 3 つについて話していただきました。

1.海洋ゴミについて
→その海洋ゴミは、どういうものなのか？海洋ゴミが及ぼす影響はどういうものなのか？
※一般ゴミのほか、船舶事故（座礁）や汚染廃棄物などその中でもプラスチックゴミは最たるもので人々が意識を持って減らす必要がある。
※海洋ゴミにからめとられる海亀やイルカ、鯨などはこれらの動物が生きていく上で大切なフィンなどが傷つけられ死滅していく現状。

→海亀はビニールゴミ（買い物用のビニール袋）を常食するクラゲと間違え、誤飲してしまう。しかし食道の形成上、吐き出すことができないため、体内に蓄積されてしまい、潜ることができなくなる。このため餌も取れなくなってしまい、最後には死を迎える。
2.プラスチックゴミが地球を回遊している
→ある都市（ある国）で排出されたゴミは世界中の海を回っている。例えばニューヨークのゴミは南極まで来ていたという統計があり、世界全体の問題となっている。
→プラスチックは分解されない人類の永遠の課題である。アホウ鳥の幼鳥に小魚などの餌と一緒に間違えて細かなプラスチックを与えてしまい、体内に蓄積されて死滅してしまうケースがある。
→プラスチックは自然分解されないため、リサイクルは行っているもののリサイクルは数%と低い。
→海洋清掃についてのプロジェクトについて
3.海洋生物に及ぼす影響について
→YouTube のビデオ“Plastic Ocean”（7 分）日本語字幕入りを見て、その惨状を確認しました。
◈海洋学者が伝えたいこと
　海洋汚染が海洋生物系に与える影響、そしてそのマイクロプラスチックゴミが自然界での食物連鎖の過程で人間の健康にどのような影響を及ぼす可能性があるか？。生活の中でプラスチックを使わないことはなかなかできない。ゴミを減らす努力や使えるものはリサイクル、あるいはリユースすることはとても大切。例えば水筒を使うなど工夫し、そのことを他の人にも伝えて欲しい。
11:05-11:20 質疑応答
●SDGs セミナーを終えて
　専門用語もあるため、英語解説にポイントを絞って通訳（AJWCEF 矢島様）をしてもらいました。スライドを見ながらの講義をとても真剣に耳を傾けていらっしゃいました。講義後も質問する姿が見られました。ゴミが世界の動物に及ぼす環境について考えるよい機会になったと思います。
11:25 海洋学者の方と団体写真撮影
11:30-12:30 海洋研究センターにて
※メキシカンブッフェランチ（バイキング）
→トルティーヤやチキン、メキシカンライス、フレッシュサラダ、フルーツなどがありました。フライドポテトもあり、生徒の皆さんに大変人気がありました。我々のグループのほかに現地校で学んでいる大人の生徒の方々も一緒にご飯を食べ、砺波高生の皆さんが自らコミュニケーションとる姿を見ました。
12:45-13:50 ルックアウト岬にて下車（Gauge Walk=海沿い渓谷の散策　1.5km 開始）
※海洋生物探検はトレイルを約 1 時間歩きます。
→世界で二番目に大きい砂の島（North Stradbroke Island）を遠望した際、見たこともない景観に生徒達は大きな歓声をあげていました。
→海に目を向けると海亀や野生のイルカが群れをなして泳ぎ、陸に目を向けると野生のカンガルーが木陰で休んでいる姿も見られ、興奮と興味を持って観察している生徒もいました。
→パンダナスといわれるパイナップルに似た木も見ることができました。
→風が非常に強い岸壁では、全員で髪の毛をボサボサにしながら団体写真撮影を行いました。
→最後にはこの地を守る先住民族アボリジニーの旗も垣間見ることができました。
⭑今回は野生海洋動物を多く見ることができました。矢島さんの説明もあり、興味深く見学ができました。風は強かったものの天気も良く、散策できたことは非常にラッキーだったと思います。
14:15-14:55 アミティ–ポイントにて下車。
※野生動物探検は民間エリアを 40 分歩きます。

→このエリアは、Wildlife's Area で野生のコアラの生息地でもあるため日本にはない、コアラ注意の標識までありました。その標識の前で撮影をする生徒の笑顔からもしかして、コアラがいるのでは？という風に感じているようでした。散策中、日本では見たこともない大きな松ぼっくりを拾った生徒がおり、日本に持ち帰りたいと話がありましたが、日本への動植物は持ち込みは生態系に異常が出る可能性もあり、禁止されていることを話しました。
→コアラは動かない動物で夜行性なため中々見つかりません。引率の先生方はオーストラリアに来てカンガルーとコアラは生徒全員に見せてあげたいという思いがありました。諦めかけたその時、いました、いました。コアラは天敵からも身を守るため、木の高い場所に目立たない様に生息しており、見つけにくいのです。しかもほぼ寝ており動きもなのでわかりにくいのですが、ガイドの矢島さんが案内してくださいました。最初は見つけられなかった生徒もその個体を見つけると大きな歓声を上げ、思い思いにシャッターを切っていました。コアラはあまり動きがない動物ですが、少し動きを見せてくれるだけでコアラの愛らしい姿が目に入ってきます。その姿に生徒たちは終始感動しとても喜んでいました。結果的にコアラは3頭も確認することができ、その他にブラックカイトといわれる大きな鳥やレインボーバードといわれる羽がカラフルな鳥も見ることができました。
　近くには白い大きな砂浜もあり、海の水に触れたい生徒も見受けられましたが、ここは我慢して頂きました。
15:00-15:05 トレイルを終え、桟橋公園休憩
15:27 North Stradbroke Island フェリー桟橋到着
※突然の風雨到来に、生徒は天気の激変に驚かれていました。
※AJWCEF より記念ステッカー配布
16:05 出港
16:56 Cleveland 桟橋到着。
※AJWCEF の矢島様と Kai さんは下車。
17:50 St.John's Anglican College 到着。
18:30 最後の生徒達を見送りました。

追伸
3/16 は各々ホストファミリーと過ごす日です。
一般的にはオーストラリアでは、教会に行ってお祈りを捧げ、それから食事をするという家庭も多いかと思います。また普段から自宅でゆっくり過ごすというスタイルや商業施設へ出かけることもあるかと思います。ショッピングセンターでお土産を準備するために出かけるとか、あるいはアクティビティーのために遠くまで出かけることもあります。ホストファミリーそれぞれの事情がありますので、みなさんが同一条件になると言うことはありません。今回の目的は、少しでもホストファミリーと英語にて対話をし、その交流を深め、思い出を作るという深い意味がありますので、ご理解をお願い申し上げます。